2005.4.10 司祭のてがみ No. 23

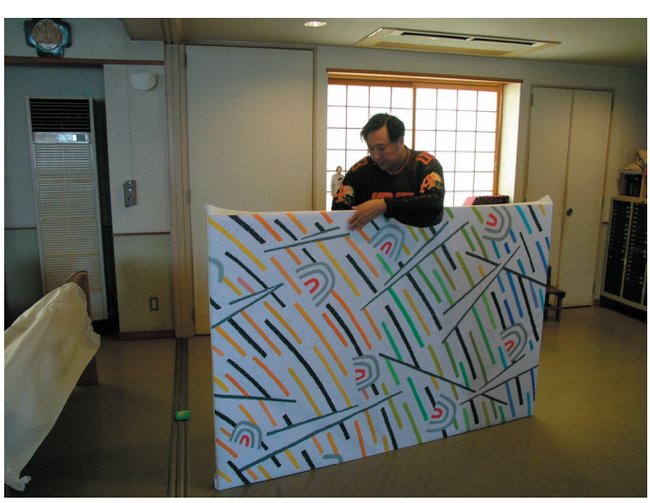
行橋カトリック教会・豊津巡回教会　主任司祭：ミカエル山元眞

九十九さんの絵が届きました

聖堂の改装工事がいよいよ１１日（月）午後から始まります。内陣の壁は白くなり、じゅうたんも赤くなります。照明器具も天井埋め込みになり、広くなります。白い壁には九十九伸一さん作の二枚の絵が掛かります。「ミケランジェロのピエタ」と「聖霊降臨」です。これで、ステンドグラスの「天使の時空」とともに、内陣の改装が完成します。

完成感謝のミサは５月２９日（日）

二枚の絵は、今は仮に掛けています。工事が始まる１１日（月）の午後にはいったんとりはずし、５月１５日（日）の聖霊降臨祭に正式に取り付ける計画です。その間は「聖霊降臨」の絵を幼稚園でのミサのときに祭壇の脇において聖霊の降臨を待ち望みたいと考えています。九十九さんは３３歳で亡くなられた弟さんの法事のために３０日に二枚の絵と一緒に帰国されましたが、４月７日（木）の午後にキャンバスを木枠に取り付ける作業を終えました。たいへんな仕事でしたが、「ピエタ」の取り付けは 40 分ほどで終わり、「奇跡的」だと感動されていました。



〒 824-0006 行橋市門樋町８－５／TEL.0930-22-0805／FAX.22-0816／http://www.yukuhasi.catholic.ne.jp/

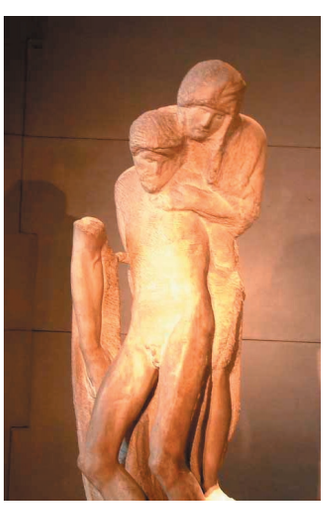
三つの作品について

祭壇に向かって左の絵は「ミケランジェロのピエタ」です。この絵は具象絵です。もとになっているものは「ロンダニーニのピエタ」というミケランジェロの彫刻です。「ピエタ」とは一般的には「悲しみ」や「慈愛」を表す言葉ですが、十字架上から降ろされたイエスを抱く「悲しみの聖母」を表す言葉でもあります（十字架の道行きの第 13 留）。

←初聖体を受ける子どもたち

改装が完成する５月２９日（日）には、行橋教会（聖堂）を説明する詳しいパンフレットを用意します。

「ロンダニーニのピエタ」は天才ミケランジェロが死の直前まで（１５４６年２月１８日：９０歳）ノミを持って制作していた最後の作品（未完）です。彼は生涯３体の「ピエタ」を彫ったといわれていますが、よく知られているバチカンの聖ペトロ大聖堂にあるピエタは最初の作で（24 歳）、最後の「ピエタ」とはずいぶん違っています。この変化はミケランジェロの信仰の変化を表しています。九十九さんは 25 年前の 1980 年にミラノでこの彫刻を初めて見て、深い感銘を受けました。この「動き」がずっと気になり、2002 年に具象画として「ミケランジェロのピエタ」を描かれました。とても大事なものでご自分の近くに持っておられましたが、昨年行橋教会に来られて私と内陣を見ている時に「ここに掛かるべきものだった！」と言われました。天の父によって引き上げられるイエスとマリア。母と子の一体感。十字架から降ろされたイエスのこの上への動きは「復活」をも表しています。父のもとに揚げられたイエスは父とともに「聖霊」を送ってくださいます。内陣の右壁のテーマはすぐに決まりました。「聖霊降臨」と！　このテーマが九十九さんを死ぬほど苦しめることになろうとは、その時は少しも思いませんでした。今、この「聖霊降臨」を待ち望む「復活節」にもっともふさわしい時期にこの絵が完成し、それを見ることができるのは聖霊の導きによるものだと確信しています。



「天使の時空」のステンドグラスとも合致しています。ミサが捧げられるこの「空間」は聖霊の働きの場、そのものです。三位一体の聖堂が完成します！